



千葉県立美術館連携事業

ルネッサンスから

ロマン主義の作品展

— 西洋美術の潮流をたどる10の複製画 —

とみらいテラス  
TOMIRAI TERRACE

2023 1.5(木)~1.29(日)

【会場】とみらいテラス 2階 市民ギャラリー

〒286-0221 千葉県富里市七栄 653-1 ☎0476-90-4646

【開館時間】

火・水・木曜 9:30-18:00 | 金曜 9:30-19:00 | 土日祝日 9:30-17:00

【期間中の休館日】

1月9日以外の毎週月曜日, 10日(火)



【初期ルネッサンス】  
**「春(プリマヴェーラ)」**  
 作者:サンドロ・ボッティチェリ  
 制作年代:1482年頃

◇ **優美で装飾的。ルネッサンス初期の代表作**

→14世紀イタリアで興った「古代ギリシャ・ローマ文芸の復興」を指すルネッサンス。その初期の代表作の1つがこの作品です。「春の寓意」という呼び名もある世界で最も有名な絵画の1つですが、実はこの絵画の主題(作品の根本的な意図やテーマ)は未だに明らかになっておらず、議論的となっています。薬草園で観察を重ね、精密に描かれた草花は130種類を超えるといわれています。

【盛期ルネッサンス】  
**「モナ・リザ」**

作者:レオナルド・ダ・ヴィンチ  
 制作年代:1503-19年頃



◇ **今なお我々を魅了する謎めいた微笑**

→様々な物語でも取り上げられる世界一有名な肖像画です。幾度も絵の具を塗り重ねてぼかしをかける「 sfumato」という技法と「空気遠近法」により、奥行きを感じさせる狙いがあります。眉とまつ毛のない状態で見慣れてしまった彼女ですが、実は描かれた当時はどちらも描かれていました。年月を経るにつれ、眉とまつ毛の画材が色あせてしまったか、修復の際に消えてしまったのでは、とされています。



【北方ルネッサンス】  
**「洗礼者ヨハネの説教」**  
 作者:ピーテル・ブリューゲル(父)  
 制作年代:1566年頃

◇ **ひしめき合う人々の中には……?**

→イタリアから始まったルネッサンスは、16世紀には北ヨーロッパへも広がり、写実性を追求した北方ルネッサンスが発展します。「農民画家」と呼ばれる程、生き生きとした農民の姿を描いたブリューゲルも、北方ルネッサンスを代表する画家の1人です。この「洗礼者ヨハネの説教」でも農民、商人、船乗りやロマなど様々な人が描かれています。その中には、木に登ったり、説教そっちのけでおしゃべりをしたり、手相を見てもらう人の姿もあるのです。

【マニエリスム】  
**「受胎告知」**

作者:エル・グレコ(ドメニコ・テトコポリス)  
 制作年代:1590-1603年



◇ **ドラマチックな色彩と構図で描かれた劇的瞬間**

→マニエリスムは、後期ルネッサンスに発生した、様式化や誇張された表現が特徴の美術様式です。人体のバランスを崩して描かれたポーズや、ドラマチックな色使いの作品が多くみられます。エル・グレコは受胎告知の場面をテーマに何点か作品を手掛けていますが、この「受胎告知」のオリジナルは国内のみみられる数少ないグレコの作品の1つで、岡山県の大原美術館に所蔵されています。



【バロック(オランダ黄金時代)】  
**「ジプシーの女」**  
 作者:フランス・ハルス  
 制作年代:1626-1630年

◇ **生命力あふれる肖像画の名手・ハルス**

→17世紀の黄金時代のオランダで活躍し、その時代のもっとも重要な画家とまでいわれたのがフランス・ハルスです。その場で取ったポーズで描かれた肖像画は、生命力と存在感にあふれています。のびやかで自由な筆遣いや自然な表情で見る者に親しみを感じさせるこの作品は、彼の作品の中でも人気の高いものです。ハルスは絵の具がまだ乾いていない段階で重ねて塗る技法を使用しましたが、これは当時としてはとても進んだ技法でした。

【バロック(オランダ黄金時代)】  
**「解剖学講義」**

作者:レンブラント・ハルメンス・ファン・レイン  
 制作年代:1632年



◇ **臨場感たっぷり！レンブラントの出世作**

→黄金時代のオランダでは、ギルド(組合)の肖像画の需要が高まっていました。しかし高名な画家に大型の肖像を注文すると高くていってしまう……そんな問題を解決したのが、組合員で資金を出し合って1つの画面に収まる集団肖像画です。この「解剖学講義(テュルプ博士の解剖学講義)」もそんな1枚。当時上京したばかりでまだ無名だったレンブラントは、この作品で一躍有名になりました。



【ロココ】  
**「シテール島での愛の巡礼」**  
 作者:アントワーヌ・ヴァトー  
 制作年代:1717年

◇ **巡礼で結ばれた恋人たちへ向けられた視線**

→愛と美の女神アフロディーテが流れ着いたという伝説の残るシテール島へ巡礼する若者たちを描いた作品です。ひと際熱烈な画面右のアフロディーテ像の前に腰を下ろしている恋人たちですが、中央の女性はそれをどこか物悲し気な目で見ています。これは彼女が恋愛の儂さを知っているからだと言われ、愛の始まりと終わりが同居したこの作品を演出しています。

【新古典主義】

**「レカミエ夫人の肖像」**

作者:ジャック・ルイ・ダヴィッド  
 制作年代:1800年



◇ **天性の美貌を誇る婦人の、未完の美しさ**

→18世紀半ばから19世紀初頭にフランスを中心に広まった新古典主義は、ポンペイの発掘等に刺激された古代ギリシャ・ローマの美術様式復活が特徴です。その第一人者が、この絵画の作者ダヴィッド。モデルはパリ社交界の花形で、歴史上最も美しい女性といわれたゾーリエット・カミエでした。ところが製作中に2人はモデルの遅刻や勝手な作画によって決裂。絵は未完成となってしまったのですが、それ故の厳格な雰囲気逆にこの絵に効果を加えています。



【新古典主義-ロマン主義】  
**「エイローの戦闘」**

作者:アントワーヌ=ジャン・グロ  
 制作年代:1807年

◇ **時代の奔流にのまれながら次代へと繋ぐ**

→アントワーヌ=ジャン・グロは、「レカミエ夫人の肖像」を描いたダヴィッドの弟子の一人でした。皇帝ナポレオンに重用された彼は、ナポレオンを讃える絵画を何枚も作成します。この「エイローの戦闘」もその一つで、ナポレオンがプロイセン・ロシア軍との壮絶な雪中での戦いの後、傷ついた敵の兵も助命するよう命じている場面を描いています。グロは新古典主義を擁護し、後進の育成にも勤めましたが、ナポレオンの失脚後は自身のロマン主義的な作風と新古典主義によるアカデミックな評価との板挟みで苦悩し、セーヌ川に身を投げるといふ悲劇的な最期を遂げました。

【ロマン主義】

**「メデューズ号の筏」**

作者:テオドール・ジェリコー  
 制作年代:1818-1819年



◇ **人の魂を揺さぶるロマン主義の旗手の代表作**

→新古典主義から少し遅れて発生したロマン主義は、ルネッサンス以降軽んじられていた人間個人の感情や感性を重視しました。147名の乗員の内、15名だけが生還した凄惨な難破事故を題材にした「メデューズ号の筏」は、鑑賞者の心を揺さぶる表現力で描かれたロマン主義の幕開けを象徴する作品です。実はこのジェリコーも、アントワーヌ=ジャン・グロの作品に影響を受けた1人でした。

ルネッサンスからロマン主義

西洋美術の潮流をたどる10の複製画